令和元年度

トゥール市派遣親善研修生
報告書

令和元年9月22日(日)～10月1日(火)　10日間

Takamatsu International Association
公益財団法人 高松市国際交流協会

目　次

1　親善研修生滞在日程表 …… 1

2　フォトギャラリー …… 3

3　親善研修生　報告書　Ⅰ

香川大学　法学部２年　廣田　実来

日誌・活動記録 …… 5

感想文「魅力あふれる街、トゥール」 …… 15

4　親善研修生　報告書　Ⅱ

香川大学　医学部１年　門田　美優

日誌・活動記録 …… 17

感想文「研修を終えて」 …… 30

令和元年度　トゥール市派遣親善研修生　滞在日程表

令和元年 9 月 22 日(日) – 10 月 1 日(火)

日　付	場　所	内　容
9 月 22 日(日)	高松駅(リムジンバス) – 関西空港 – シャルル・ド・ゴール空港 – サン・ピエール・デ・コール駅到着 (TGV)	トゥール市役所職員・ホストファミリー出迎え
9 月 23 日(月)	トゥール市役所	トゥール市役所見学・昼食 歓迎セレモニー・副市長表敬
	デカルト高校	習字ワークショップ
	トゥール市旧市街見学	旧市街とプリュムロー広場などの見学
9 月 24 日(火)	ブロワ城	ブロワ城見学
	トゥール大学ブロワ校技術短期大学部	高松市紹介プレゼンテーション・ おりがみワークショップ
9 月 25 日(水)	トゥール市内見学	レ・アール(常設市場)・トゥール美術館見学
	キッズリクリエーションセンター	習字・おりがみワークショップ
9 月 26 日(木)	ディドロ小学校訪問	習字・おりがみワークショップ
	トゥール地方音楽院	音楽学校の施設を見学
	トゥーレーヌ語学学院	高松市紹介プレゼンテーション
9 月 27 日(金)	トゥール大学	高松市紹介プレゼンテーション・折り紙ワークショップ 茶道体験ワークショップ
	ヴィランドリー城	城内・庭園見学、城主訪問
9 月 28 日(土)	トゥール植物園	日本文化紹介イベントに参加 うちわワークショップ
9 月 29 日(日)	サン・ピエール・デ・コール駅到着 (TGV) – モンパルナス駅	トゥール市役所職員・ホストファミリー見送り
	パリ	パリ市内観光
9 月 30 日(月)	モンパルナス駅(シャトルバス) – シャルル・ド・ゴール空港	—
10 月 1 日(火)	関西空港 – 高松駅 (リムジンバス)	—

【9 月 22 日(日) – 28(土)　トゥール市でホームステイ、9 月 29 日(日)　パリ市内泊】

VILLE DE TOURS

Photo Gallery 2019

ホストファミリーと対面

デカルト高校
習字ワークショップ

トゥール市役所・トラム

トゥール市役所
歓迎セレモニー

トゥール市役所にて昼食

キッズリクリエーションセンター
習字ワークショップ

トゥール大学ブロワ校技術短期大学部
折り紙ワークショップ

ディドロ小学校
折り紙・習字
ワークショップ

トゥール大学
茶道体験

トゥール植物園
日本文化紹介イベントに参加

ヴィランドリー城見学

トゥーレーヌ語学学院訪問

親善研修生　報告書　I

親善研修生　報告書Ⅰ

日誌・活動記録

香川大学　法学部２年　廣田　実来

9月22日（日）

ついにこの日がやって来た。私にとって、人生初の海外であるトゥールへ出発する日だ。緊張であまり眠れないまま朝の４時に高松駅へ集合し、関西国際空港へと向かった。到着後、想像以上にスムーズに搭乗手続きを済ませることができた。出発まで２時間ほど時間があったため、同じ親善研修生の門田さんとフランス語で自己紹介をする練習をしたり、現地で開催するワークショップで、どのように折り紙や習字を説明するかを相談したりして過ごした。台風の影響が心配されたが、飛行機は無事離陸し、約12時間のフライトを終えて、パリのシャルル・ド・ゴール空港へ到着した。そして、ガイドさんと合流し、TGV（フランスの高速鉄道）に乗ってサン・ピエール・デ・コール駅へ向かう予定だった。しかし、ここで事故によるTGVの遅延が分かった。最初は１時間半ほどの遅延だったのが、２時間、３時間…と遅れた。その間ガイドさんが、会話でよく使うフランス語や地下鉄の乗り方を教えてくださった。それ以外にも、駅員さんに状況を聞いてくださったり、私達のホストファミリーと連絡を取ってくださったりとあらゆる面で助けていただいた。

シャルル・ド・ゴール空港にて

やっとTGVが到着した時には、ホームにいた人たちが拍手喝采の大歓声で迎えていた。ガイドさんと別れ、サン・ピエール・デ・コール駅に着く頃には夜の11時を過ぎていた。駅では、トゥール市役所のマーゴさん、私達と共に行動してくれるボランティアのオセアン、ホストファミリーが待ってくれていた。私のホストファーザーのヤニックさん、ヤニックさんのお母さんのエレーヌさんが「初日から大変だったね」と労ってくれ、その優しい言葉に緊張していた気持ちが和らいだ。ホストファミリー宅へ到着すると、ホストマザーである日本人の芽里奈さんも出迎えてくれた。ホームステイは、エレーヌさんのお家の一室をお借りするとのことで、とても可愛いお部屋に案内してもらった。荷物を置くとどっと疲れが押し寄せた。もう遅い時間だったため、シャワーを浴びてすぐに就寝した。

可愛い部屋

9月23日（月）

今日は、午前中が自由時間だったため、荷物の整理をしてゆっくりと過ごした。９時頃にエレーヌさんと芽里奈さんと一緒に朝食のバゲットと紅茶を頂いた。本場のバゲットは香り豊かでとても美味

しかった。12時にオセアンと門田さんと待ち合わせ、トゥール市役所へ向かった。トゥール市役所は綺麗な装飾が施された荘厳な建物で、その美しさに圧倒された。トゥール市役所のオロールさん、マーゴさんが私達3人を温かく迎えてくれ、皆で市役所内の食堂で昼食をとった。前菜、メインディッシュ、デザートと順番に選んでいったのだが、前菜の中に「タブレ」という初めて見る料理があった。タブレとは、「クスクス」という小さなパスタを使ったサラダのような料理で、レモンの爽やかな味がした。また、私が取ったヨーグルトのパッケージに「Sur un lit d'Abricots」という文があった。直訳すると「アプリコットのベッドの上」となるのだが、これはヨーグルトの下にアプリコットのソースが入っているという意味だとオセアンが教えてくれた。さらに、オロールさんがフランスでは人参を食べると優しい性格になると言われているとも教えてくれた。日本のことわざのように、フランスでは食べ物に関する表現が多いと知った。昼食後はトゥール市役所の隣にあるデカルト高校で習字のワークショップを行った。高校の先生方やオセアンに協力してもらいながら習字について説明し、「友」という漢字を書いてもらった。書き順や漢字のバランスを伝えることが難しかった。そして、生徒たちの名前を聞きカタカナにして教えると、興味津々で何度も自分の名前を書く練習をしていた。「シ」と「ツ」、「リ」と「ソ」などは、カタカナを初めて見る人にとっては形の違いが分かりにくく、教える時に気を付けなければならないと思った。最後は大きな紙の真ん中に「一期一会」と書き、その周りに名前を書いてもらって作品を作った。生徒たちが「ありがとう」と日本語で言ってくれてとても嬉しかった。ワークショップの後はトゥール市内を観光した。ステンドグラスが美しいサンガシアン大聖堂やロワール川のほとり、プリュムロー広場などを案内してもらった。トゥールは歴史ある落ち着いた雰囲気と、おしゃれなお店が立ち並ぶ近代的な部分が融合している住みやすい街だと感じた。その後、トゥール市役所で私達の歓迎セレモニーを開いていただいた。市役所の中は煌びやかな装飾が施され、天井が高く、立派な階段が中央にあった。会場である「婚礼の間」は大きなシャンデリアと壁に飾られた絵画が印象的だった。まずトゥール市の副市長さんが私達を紹介してくださり、「トゥール市での滞在を楽しんでください。そして、トゥール市の魅力を高松市の方々にたくさん伝えてください。」と仰った。研修生として頑張ろうと気持ちが引き締まった。その後、私たちは関係者の方々やホストファミリーの前で、フランス語で自己紹介をした。緊張して少し間違えてしまったが、発音を褒めてもらえてほっとした。ホストファミリー宅へ帰宅すると、三男のルイ君、四男のレオ君、五男のトマ君、六男のテ

トゥール市役所で昼食

デカルト高校で習字のワークショップ

ホストファミリーとの夕食

オ君が私を迎えてくれた。ヤニックさんには7人の子供がいて、食卓はいつも賑やかだ。長男のヒューゴ君、次男のルカ君、ヤニックさんが校長先生をしている語学学校で、フランス語を勉強しながらパティシエを目指している飛悠斗さんも合流し、夕食のキッシュを食べた。この日は、長女のクラリスに会えず残念だった。食卓での会話はもちろんフランス語だ。私も頑張ってフランス語で会話に参加すると、優しく聞いてくれた。そして、私が日本から持ってきたお土産の中に入っていた駄菓子の詰め合わせを想像以上に喜んでくれた。フランスでは、家族や友人に「ビズ」という頬と頬を合わせる挨拶をする。末っ子のテオ君が、私にもおやすみのビズをしてくれてとても可愛かった。

9月24日（火）

朝9時にトゥール駅へ集合し、TER（国有鉄道）に乗ってブロワへ向かった。トゥール大学ブロワ技術短期大学のドゥボー先生に挨拶し、大学で少し休憩した後ブロワ城へ行った。フランス歴代の王が多く住んでいたブロワ城は、1つの中庭を囲む4つの建築物で構成されている。ゴシック、フランボアイアン、ルネッサンス、クラシックと異なる建築様式の中に、フランスの歴史が多く詰まっている。フランソワ一世の居室や王の名前の組み合わせ文字があしらわれた壁、数多くの絵画や芸術品など当時の城内の様子が、そのまま再現されており、自分も王家の一員となったような気持ちになった。また、城のあちこちに怪物をかたどったガーゴイル（雨どい）があったのだが、ちょうど雨が降っていたためガーゴイルの口から雨水が流れてくる様子を見ることができた。ブロワ城を見学した後、ファーマー先生とお会いし、一緒に昼食をとり、ブロワの街を散策した。ブロワは坂道や階段の多い街で、遠くから見ると「モナリザ」が浮かび上がるようにデザインされた面白い階段もあった。生徒たちが待つ教室へ移動し、まずは高松市についてのプレゼンテーションを行った。日本の文化が好きな生徒もいて、瀬戸内海の景色や栗林公園など高松市の名所に興味を持ってくれた。次に折り紙のワークショップを開催した。八戸市から来ている2人の日本人留学生も一緒に参加してくれた。2つのグループに分かれ、私のグループは兜、鶴、羽織、ハートの折り紙を折った。英語やフランス語で折り方を説明していったが、私が説明する前に、お手本を見ながらどんどん折っていく人もいて、初めて折り紙をするとは思えないほど上手だった。1つ作品が完成するごとに写真を撮ったり「ありがとう、机に飾るね」と言ってくれたり、楽しんでもらえたようで本当に良かった。ただ、今日1日で自分の語学力の未熟さを痛感し、悔しい思いもした。相手が言っていることは理解できても、自分の気持ちを十分に伝えることができない。まだまだ勉強を頑張らなければと奮い立った。ホストファミリー宅へ戻り、夕食まで時間があったのだが、気づくと眠ってしまっていた。ブロワの街をずっと歩いていたため、かなり疲れていたようだ。夕食の時、私が大学で地球温暖化防止活動を推進するプロジェクトに参加していること

ブロワ城の見学

大学で折り紙のワークショップ

を話すと、ヤニックさんが「牛を飼育したり加工したりする時のエネルギーが、温室効果ガスの増加につながるため、牛肉をたくさん食べることは環境に悪い」とフランスで言われていると教えてくれた。なるほどと思いつつ、その日の夕食に出ていた牛肉がとても美味しくてたくさん食べてしまった。

9月25日（水）

朝、門田さんとオセアンと待ち合わせをしてトゥール市役所へ向かった。トゥール市役所の中には託児所のような施設があるそうで、朝からたくさんの親子が来ていた。私はふと、お父さんが子供を連れてきている場合が多いことに気が付いた。オセアン曰く、父親が子供の送り迎えをしたり、料理を作ったりすることは普通のことだそうだ。日本は、まだまだ母親の育児の負担が大きいと思うので、フランスのように変わっていってほしいと感じた。その後、トゥール市役所のオロールさんと合流し、レ・アールという常設市場へ行った。レ・アールは、屋外と屋内どちらにもあり、新鮮な野菜や肉、魚、チーズ、総菜、パンなどがたくさん並べられていた。ここに来れば必要な食材が何でも揃うため、レ・アールは「トゥールのお腹」と呼ばれているそうだ。特にチーズは、フランスだけでなくヨーロッパ各地から集められており、その種類の豊富さに驚いた。次に、オセアンの案内でトゥール美術館へ行った。美術館に入るとまず、樹齢1000年と言われている大きな木がそびえ立っていて圧巻だった。トゥール美術館は、サンガシアン大聖堂に隣接して建つ大司教の館を改装したもので、19世紀から20世紀のフランス国内外の絵画を中心に展示しているそうだ。また、彫刻や現代アートの作品も多く展示されていた。フランスの美術に関してあまり詳しくない私であったが、心惹かれる作品がいくつかあり、帰りにその作品のポストカードを買った。

レ・アール（常設市場）

みんなで作った作品

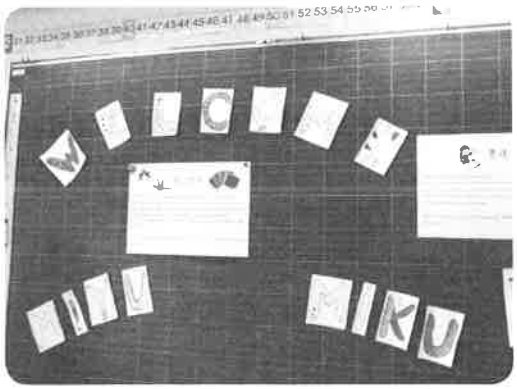
美術館を見学した後は、サンシール日仏友好協会のクレオラ美紀さんにお会いし、サンシール市にあるキッズリクリエーションセンターを訪問した。フランスの小学校は、水曜日が休みのところが多く、両親が共働きの子供たちをここで朝から夕方まで預かっているそうだ。また、ただ預かるのではなく、しっかりと教育プログラムが組まれていたり、菜園で子供たちと一緒に野菜を作っていたりという特徴がある。まずは10歳位の子供たちと習字をした。墨汁だと汚れが落ちにくいため、先生方の提案で、ガッシュという絵の具を使って行った。「友」という漢字をお手本で書いた後、一人ひとり一緒に練習した。また、子供たちの名前をカタカナで書くと皆

完成した作品と一緒に

日本語に興味津々で、自分の家族の名前も書いてほしいと言ってくる子もいた。次に、4歳位の小さな子供たちも一緒に折り紙で紙飛行機を折った。先ほど習字を体験した子供たちが、率先して小さい子に折り紙を教えてくれた。完成した紙飛行機を持って外で飛ばして遊ぶと、子供たちは本当に楽しそうで、日本の伝統文化である折り紙でこんなにも喜んでくれたことに胸がいっぱいになった。私たちが帰る時間になると、子供たちが日本語で「ありがとう、さようなら」と言ってくれた。中には、折り紙でハートを折ってプレゼントしてくれたり、ハグで別れを惜しんでくれたりする子もいた。予定時間よりも早くトゥール市内へ戻ったため、オセアンが私と門田さんを買い物へ連れて行ってくれた。「モノプリ」というフランスでは有名なスーパーマーケットで、しばしショッピングを楽しんだ。モノプリには、食料品だけでなく化粧品やアクセサリー、衣服もたくさん売っている。また、フランスでの買い物には、エコバッグが必須だ。日本で買い物をすると、ビニール袋に入れた後、さらに紙袋に入れてくれるお店も多い。丁寧ではあるが、環境のことを考えると過剰包装だと思う。日本でエコバックを普及するためには、フランスのように思い切ってレジ袋を廃止するのもいいかもしれないと感じた。モノプリでは、1ユーロほどでおしゃれなデザインのエコバッグが手に入るため、私も門田さんも自分の好きなエコバッグを購入した。このエコバッグをこれからも活用したいと思う。

9月26日（木）

今日は、ディドロ小学校へトラム（路面電車）に乗って向かった。トゥール市内を走るトラムはモダンなデザインで、お金がチャージされてあるカードを機械にかざして乗るシステムだった。ディドロ小学校に到着して、最初に感じた日本との違いはチャイムの音である。「ジリリリリ」と非常ベルのような音が響き、私たちはとても驚いてしまった。オセアンが授業の始まる合図なのだと教えてくれた。案内されたクラスは生徒の数が11人と、日本よりも少人数で授業が行われていた。黒板には「WELCOME　MIYU　MIKU」と手作りのカードが貼ってあり、私たちを温かく迎えてくれた。まずは、折り紙でハート、兜、箱を折った。折り方が分からない子供に教えてあげると、キラキラした目で「メルシー」と言ってくれてとても嬉しかった。次に習字をした。



嬉しいおもてなし

手が小さい子供たちにとっては、筆を持つのも一苦労のようだったが、みんな楽しそうに書いていた。ここでも子供たちの名前をカタカナで書いた。そして、最後に大きな紙の真ん中に「友」と書き、その周りに子供たちの名前を書いてもらった。のびのびと書かれた名前はそれぞれ味があり、素敵な作品ができた。先生と一緒に「こんにちは、ありがとう、さようなら」を、日本語で何回も練習している様子がとても可愛かった。「毎日来てくれたらいいのに」と言ってくれる子供もいた。ワークショップが終了し、ディドロ小学校の職員室で昼食をとった。日本の小学校の職員室とは違い個人の机が無く、一つの大きな机の周りに、先生方が座って和気あいあいと仕事をしていたのが印象的だった。

次に、トゥール地方音楽院の見学へ向かった。トゥール地方音楽院は7歳から大人まで幅広い年代の生徒が在籍し、ジャズ、クラシック、バレエなど様々なクラスがある。校舎は、昔教会だった所を使っており、その名残が至る所に見られた。校舎の中では、色々な楽器の音色が響き、生徒がそれぞれのレッスンに励んでいた。その後、トゥーレーヌ語学学院へ向かうため、トゥール駅の近くを歩いてい

トゥーレーヌ語学学院にて

るとデモに遭遇した。私と門田さんは、物々しい雰囲気に驚いていたが、オセアンはフランスでは日常茶飯事だと平然としていた。そしてトゥーレーヌ語学学院へ到着した。トゥーレーヌ語学学院は1912年に設立された歴史のある学校で、世界各国から学生が集まっている。トゥールは、フランスで最も美しいフランス語を話す地方と言われており、フランス語を勉強するのにぴったりの環境だ。自分のレベルに合ったコースを選ぶことができ、少人数で和気あいあいと授業が行われているそうだ。会場に案内され、高松市のプレゼンテーションの準備をしていると、日本人の生徒がたくさん来てくれた。プレゼンテーションの後、香川県の銘菓であるおいりと瓦せんべいを食べながら生徒達と交流した。皆それぞれが目標を持って、一生懸命フランス語を勉強している姿はとてもかっこよかった。留学して約1年と言っていた方が、とても流暢にフランス語を話していて、私もこれくらい話せるようになりたいと強く思った。また、いつか高松に行ってみたいとたくさんの人が言ってくれて嬉しかった。校長先生からたくさんお土産をいただき、是非、再びフランス語を勉強しに来てください、と言っていただいた。今夜は、私がエレーヌさんに夕食を振舞う約束をしていたので、いなり寿司と味噌汁を作った。エレーヌさんは日本食が大好きで、キッチンには日本の調味料や箸がたくさん置いてあり驚いた。いなり寿司は、初めて食べたそうだが美味しいと喜んでくれた。そして、いつもは食後に紅茶を飲むのだが、日本らしいものにしようと、抹茶ラテとゴマのお菓子を持ってきてくれた。食後、今までエレーヌさんのもとでホームステイしてきた方の写真を見せてもらった。今まで何人もの人がエレーヌさんと過ごしてきたことを知り、それと同時に私もその1人になると思うと感慨深かった。

いなり寿司と味噌汁

9月27日（金）

今朝は8時に集合し、トゥール大学へ向かった。バスで向かったのだが、ちょうど通勤通学ラッシュの時間で、バスは満員だった。トゥール大学へ到着し、保井先生に挨拶した後、早速1時間目の授業が行われる教室へ行った。保井先生が日本語を教えている学生を前に、まずは高松市についてのプレゼンテーションを行った。みんな高松市の名所や伝統工芸に興味津々だった。その後、折り紙で羽織を折った。細かいところまで丁寧に折っていて、それぞれ美しい羽織ができあがっていた。2時間目は、お茶会を行うことになっていた。開始まで時間があったので、門田さんと茶道の手順を復習した。お茶会に参加してくれた学生は、あらかじめ茶道について

トゥール大学での茶道体験

勉強していたようだった。まず、1杯目は、私がお抹茶を点て、その間に門田さんが用意した茶菓子の和三盆を運んだ。そして、2杯目以降を学生自身で点ててもらった。茶筅の持ち方が少し難しそうだったが、すぐにコツをつかんで綺麗な泡が立っていた。私は茶道を練習している時に、なかなか泡が立たず苦戦したため、みんながあまりに上手で驚いた。また、抹茶や和三盆の味をどう感じるのか不安だったが、和三盆の甘さと抹茶の苦みがちょうどよくて、美味しいと喜んでもらえた。お茶会が終わった後は、学生達と食堂で昼食をとった。数日前から、みんなで昼食をとる計画を立ててくれていたと聞いて本当に嬉しかった。フランスでは、日本のアニメが数多く放映されている。私は普段あまりアニメを見たり漫画を読んだりしないため、おすすめのアニメをたくさん教えてもらった。さらに、日本とフランスの学校生活の違いで話が盛り上がった。短い時間ではあったが、みんなの日本への愛をひしひしと感じ、私自身も新しい視点から日本の良さを見つけることができた。翌日に、私たちがワークショップを開催するトゥール植物園でのイベントで再会することを約束し、みんなと別れた。午後からは、トゥール市役所のマーゴさんも一緒にヴィランドリー城へ向かった。ヴィランドリー城は、玉藻公園と城や庭園の管理について知識・技術を共有し、友好を深めることを目的とした連携協定を結んでいる。城主のカルヴァロさんにお会いし、お城の歴史や特徴をまとめた映像を見せていただいた。1530年頃に完成したヴィランドリー城は、ルネサンス期にロワール川沿いに建造された最後の主要なお城である。その後、現城主の曽祖父であるヨアキム・カルヴァロ氏が城を買い取り、16世紀の様式の庭園を造ったそうだ。展望台からは、庭園を一望することができ、幾何学模様の様々な庭園がお城と調和して本当に美しかった。特に印象的だったのは、「愛の庭園」と呼ばれる、優しい愛、情熱の愛、移り気な愛、悲劇的な愛の4つの正方形の庭だ。また、菜園は、同じ大きさの9つの正方形からできており、それぞれ異なる野菜を植えて模様を作っていた。城内には、18世紀の調度品や数多くの絵画、家具などが展示されており、当時の貴族の生活を肌で感じることができた。1つ1つの部屋がとても広く、豪華であるのに対し、ベッドはとても小さいことに驚いた。

食堂で仲良く昼食

ヴィランドリー城の「愛の庭園」

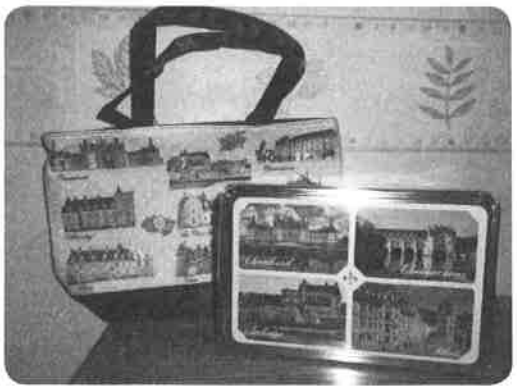
ヴィランドリー城を見学した後、みんなでクレープを食べた。日本のクレープは、クリームやフルーツなどたくさんトッピングされているものが多いが、私たちが食べたクレープは、生地にジャムやチョコレートソースを塗っただけのシンプルなものだった。ナイフとフォークを使って食べると、いつも手軽に食べているクレープが上品なデザートに感じた。

9月28日（土）

今日の朝食はヤニックさん、芽里奈さん、そして子供たちと大勢で食べた。ヤニックさんが買ってきてくれた大量のバゲット、クロワッサン、パン・オ・ショコラなどの中から好きなものを選んだ。賑やかでとても楽しい時間だった。朝食の後は、門田さんと、門田さんのホストファミリーである高校生のリルーと一緒にトゥールの街を散策し、家族へのお土産を買った。エレーヌさんとの朝食に出てきたグースベリーのジャムが、絶妙な甘酸っぱさで美味しく、日本でも食べたかったため、同じジャムを購入した。そして門田さんとリルーと別れ、1人でホストファミリー宅へ帰った。思えば、トゥールへ来てから街を1人で歩くというのは初めてだった。フランスの歩行者信号は、青色の信号が点滅せず突然赤色の信号に変わる。この信号は、何度歩いても慣れなかった。昼食後、ホストファミリーと一緒にトゥール植物園へ向かった。トゥール植物園で開催される日本文化を紹介イベントへ参加するためだ。トゥール市役所のオロールさん、オセアン、門田さんと合流し、用意されたブースでうちわのワークショップを行った。片面が高松の観光名所などを紹介するデザイン、もう片面が白紙になっているうちわを高松から持参していた。白紙の部分に来てくれた人の名前をひらがなで書いてプレゼントした。開始直後からたくさんの人が来てくれて、高松のデザインのうちわは、あっという間に無くなった。そこで、ミニサイズの真っ白なうちわの表にみんなの名前、裏に「高松」の文字を書いて渡していった。用意していたうちわが無くなった後は、和柄の折り紙に名前を書いたり、半紙に名前を書いて折り紙で作った羽織を貼って渡すなど、色々な工夫をしていった。ワークショップを行っている間、なかなか列が途切れず、それだけ日本の文化に興味を持っている人が多いことに大きな喜びを感じた。イベントには、前日のお茶会で仲良くなったトゥール大学の学生や、ファーマー先生、保井先生が来てくださった。私たちのことをたくさん気遣ってくださり、その優しさに感謝の気持ちでいっぱいになった。また、オセアンが、私と門田さんにお土産を渡してくれた。オセアンにはありとあらゆる場面でお世話になった。こうやって一緒に活動できるのも今日が最後かと思うと本当に寂しかった。

植物園でのうちわワークショップ

イベント終了後、ホストファミリーと家に戻り、みんなでおやつを食べた。すると、そこにヤニックさんのお兄さんの家族が来られて、さらに賑やかになった。子供たちの笑い声が響くリビングで、芽里奈さんとお互いの家族についてたくさん話をした。ヤニックさんの家は、必ず夕食をみんなで一緒に食べ、テレビは付けずにゆっくりと過ごす。この時間がとても素敵だと思った。夕食後、私がお土産として持ってきていたお菓子をみんなで食べた。また、紙風船や吹き戻し、飛行機のペーパークラフトなど、昔ながらのおもちゃを持ってきていたのだが、子供たちが家の中を駆け回るくらい楽しそうに遊んでくれて嬉しかった。そんな子供たちの様子を見ていると、突然ヤニックさんからプレゼントをいただいた。お菓子の箱にはロワールの古城4つの



ホストファミリーからのプレゼント

写真があり、「この中で実来が行ったのはブロワ城だけだから、残り3つを見にまた遊びに来てね」と言ってくれた。長いようであっという間だったトゥールでの生活が、いよいよ終わることを実感した。トゥールでの最後の夜は少し切なかったが、ホストファミリーの優しさをひしひしと感じ幸せだった。

9月29日（日）

ホストファミリー、オセアンとの別れ

いよいよトゥールを出発する日が来た。ホストファミリー、オセアン、トゥール市役所のアミローさんが見送りに来てくれた。エレーヌさんに「また来てね」とハグされると思わず涙が出そうになった。トゥールで出会った人たちに、必ずまた会いに行きたい。

TGVで約1時間移動し、パリへ到着した。ホテルに荷物を預け、翌日乗るシャルル・ド・ゴール空港行きのバス停の場所を確認した後、いざパリ観光へ出発である。まずは、ルーヴル美術館へ行こうとモンパルナス駅から地下鉄に乗った。パリの地下鉄は、切符が回収されなかったり料金が一律だったりと日本と違うところが多く、少し不安を抱えながら乗車した。シャトレ駅で降り、15分ほど歩くとルーヴル美術館が見えた。時間がなく、あまりに観光客が多かったので、美術館の中を見学することは断念し、あの有名なルーヴル・ピラミッドの前で写真を撮った後は、セーヌ川のほとりをゆったりと散歩した。次に、門田さんの希望で「アンジェリーナ」というお店へ行った。ここは、モンブランが有名なお店で、外には行列ができていた。私と門田さんは、モンブランと、人気のホットチョコレートを注文した。モンブランは、マロンクリーム、生クリーム、メレンゲの3層構造でその上品な味に感動した。しかし、モンブランもホットチョコレートもとても甘く、半分程食べたところで苦しくなってしまった。甘さで重くなった体をリセットするべく、コンコルド広場やシャンゼリゼ通りを歩いた。真っすぐ伸びるシャンゼリゼ通りの先に凱旋門が見えると、自分がパリにいることを実感し心が震えた。ずっとどんよりと重い雲がかかった天気だったのだが、私達が凱旋門の目の前に来た時に、ちょうど青空が見え綺麗な空と壮大な凱旋門を写真に収めることができた。ルーヴル美術館、凱旋門と来れば、最後はもちろんエッフェル塔だ。最初は地下鉄に乗って移動する予定だったが、パリは思っていたよりもコンパクトな街で、徒歩でも移動することができた。実際に見るエッフェル塔は想像以上に高く、その美しさは、まさに「パリのシンボル」だった。せっかくなのでエッフェル塔へ階段で昇ってみた。第1展望台までは順調だったのだが、第2展望台へ着く頃には2人とも息が上がっていた。さらに第2展望台では強風が吹き、

アンジェリーナのモンブラン

青空に映える凱旋門

あまりの寒さに景色を楽しむ余裕もなく撤退した。震える足で何とか地上に戻り、最後にお土産を買うためデパートへ行った。あっという間に時間は過ぎ、ホテルの近くのスーパーマーケットで夕食を買おうとしたのだが既に閉店していた。どうしようかと歩いていると、ホテルのすぐ近くに中華料理店を見つけた。その美味しそうな匂いに惹かれ、最後の晩餐は中華料理に決定した。パリで行ってみたかった所を全て回ることができ大満足の1日となった。スマートフォンの歩数計によると今日1日で20㎞、実に28,834歩も歩いていた。

9月30日（月）

ついに日本へ帰国する日が来た。8時15分のバスでシャルル・ド・ゴール空港へ向かうため、7時頃に朝食を取り、急いで準備をした。朝食は、様々なパンにジャム、ヨーグルト、チーズ、シリアルなど充実したバイキング形式だったが、ホテルのスタッフが誰もいないことに驚いた。バス停へ行くと窓口がまだ開いておらず、チケットを前日に購入していて良かったと思った。また、日本のバスは運転手さんが荷物を積み込んでくれるが、このバスは自分で積まなければならず、日本のサービスの手厚さを感じた。空港では、お土産を見たり、フランスで過ごした日々を振り返ったりして、ゆっくりと過ごした。本当にあっと言う間に過ぎた10日間だった。出発する前は、不安な気持ちでいっぱいだったが、たくさんの人に支えられて、かけがえのない時間を過ごすことができた。これから、もっとフランス語を勉強し、またいつかトゥール市を訪れたいと強く思った。

下から見上げたエッフェル塔

親善研修生　報告書Ⅰ

感想文

魅力あふれる街、トゥール

香川大学法学部　2年
廣田　実来

今回の研修が自分にとって初めての海外でした。また、高松市で生まれ育った私にとって、自分の家を10日間離れるということも初めてでした。トゥール市でたくさんの方に出会い、毎日が新鮮で本当に有意義な時間を過ごすことができました。

トゥール市の旧市街では、古城や大聖堂など中世フランスの当時の雰囲気を味わうことができる一方で、トラムが走ったり充実したショッピング街が広がっていたりと近代的な側面もあります。温暖な気候や豊かな自然、古き良き街並みと現代的な部分が美しく調和しているところは、高松市と通じるものがあり、初めて訪れたのにどこか懐かしさを感じる瞬間もありました。

私が今回の研修の中で特に印象的だったのは、現地で日本に興味を持ち、日本が大好きと言ってくれる方がとても多かったことです。現地の学校で習字や折り紙、茶道をして交流しましたが、小さい子供から大学生、さらには先生方も、夢中で日本の伝統文化を楽しんでくれました。フランスの方々が日本に親しみを持ってくれていることを嬉しく思うと同時に、私自身も、もっと自分の故郷のことを知り、大切にしていきたいと感じました。また、今回の研修で1番不安だったのは、やはり言葉の壁でした。しかし、実際に行ってみると、フランス語が完璧に話せなくても、ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとることができました。文法が合っているかどうかよりも、自分の思いを伝えようとする積極的な姿勢、そして相手の思いを汲み取ろうと真剣に耳を傾けることが重要なのだと実感しました。今まで、外国人の方と話す時は自信がなく、声も小さくなってしまっていたのですが、今は大きな声で、はきはきと笑顔で話すことができるようになりました。ただ、外国語を話せるに越したことはないので、これからも勉強を続けていきたいです。

トゥール市での滞在中、様々な方にお世話になりました。ホストファミリー、トゥール市の職員の方々、全ての研修でサポートしてくれたオセアン、現地の学校の方々など、私たちを温かく迎え、あらゆる面で助けていただきました。また、出発前も事前研修の先生方にお世話になりました。全ての方のおかげで、フランスの生活、文化に触れる貴重な体験をすることができ、高松市の魅力を再発見するきっかけにもなりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

人生の中で、最も刺激的で、私の中の世界が大きく広がった10日間でした。勇気を出して、この研修に参加して本当に良かったです。今回の研修で得たことを活かし、高松市とトゥール市の魅力をもっと多くの人に知ってもらえるよう、様々な活動に取り組んでいきたいと思います。

親善研修生　報告書　Ⅱ

親善研修生　報告書Ⅱ

日誌・活動記録

香川大学　医学部１年　門田　美優

9月22日（日）

ずっと楽しみにしていたトゥールへ旅立つ日がやってきた。朝４時半頃に高松駅バスターミナルに集合、家族や旅行会社の方、高松市国際交流協会の職員の方に見送られて高松を出発した。同じ親善研修生の廣田さんも私も海外へ行くこと自体が初めてで、２人とも不安な気持ちを大きく抱えたまま関西国際空港へ到着したが、事前の旅行会社の方からの丁寧な説明のお陰で、２時間もの余裕を持って、スムーズに搭乗手続きを完了することができた。約12時間の長いフライトでは、映画を見たり、現地での研修スケジュールをチェックしたり、大学のテスト勉強したりしてあまり寝ることなく過ごした。予定時刻よりも早くパリのシャルル・ド・ゴール空港に着き、現地ガイドの女性と合流した。時間に余裕があったので、空港でパンを買い、ガイドさんとお話をした。私たちは、最終日のパリ観光の予定を立てていなかったため、事前に買ったガイドブックや地図を見ながら、パリ観光の予定を一緒に立ててもらった。公共交通機関の使い方が心配だったが、メトロ（地下鉄）のチケットも一緒に買ってもらい、不安要素が１つ解決した。ゆったりと過ごしていたのだが、TGV（高速鉄道）の遅れが発生していることが分かり、空港での滞在時間が伸びた。ガイドさんが運行状況を駅員さんに確認してくれた時には、あと８分で来ると言われたのでホームに降りると、さらに１時間の遅れが発生していて、結局トゥールへの到着は３時間遅れとなった。サン・ピエール・デ・コール駅ではトゥール市役所職員のマーゴさん、滞在中私たちの引率をしてくれるオセアン、廣田さんと私のホストファミリーが迎えに来てくれていた。足早に車に乗り、それぞれのホームステイ先へと向かった。私のホストファミリーは、ホームページ制作会社に勤めるホストファーザーのアンドレ、高校で美術教師をしているホストマザーのクリスティン、高校３年生のリルーと高校２年生のニノの４人家族である。家に着くとリルーとニノが挨拶をしてくれた。クリスティンとリルーと３人でお茶を飲みながら話をした。リルーは、昨年日本に10ヶ月ホームステイした経験があり、日本語が上手である。どうやらTGVの遅れは自殺による人身事故が原因だったらしい。既に時間も遅く、私は軽食をシャルル・ド・ゴール駅でとったため、ホストマザーが歓迎のために作ってくれた料理は明日の夕食に持ち越しとなった。

シャルル・ド・ゴール駅にて

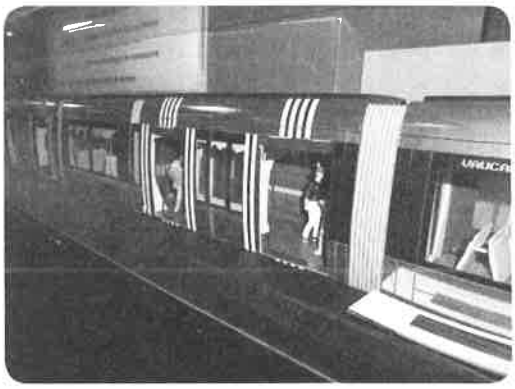
トゥール市に到着

9月23日（月）

今日は昼からの活動だったため、朝はゆっくりと寝ることができた。目覚ましのアラームもかけずに寝たため、起きると11時前だった。キッチンに行くとクリスティンが朝食を準備してくれた。本場フランスのバゲットは本当に美味しく、これから10日間美味しいバゲットを食べられることを嬉しく思った。クリスティンは少し英語を話せるので、英語で会話を楽しんだ。マンションの4階のベランダから、トゥールの街並を眺めながら、建物の建築様式や有名な教会などについて教えてもらった。建築様式や色彩の似た建物が並んでいて、町全体に統一感が感じられ、とても美しかった。家を出発する時間が近づいて来たので、身支度をしていると、歯ブラシを忘れていることに気がついた。急いでクリスティンにその事を伝え、一緒にスーパーマーケットへ買いに行った。私のホストファミリーの家は、トゥール市の中心部にあり、とても生活に便利である。スーパーマーケットへも5分かからず、トゥール市役所やトゥール駅へもまっすぐ歩くだけで到着できる。オセアンと廣田さんが家まで迎えに来てくれ、一緒にトゥール市役所へ向かった。日本の市役所とは違い、美術館やお城のような外観だった。

トゥール市役所

市役所では、職員のマーゴさんとオロールさんが迎えてくれ、市役所内の食堂へ昼食をとりに向かった。オロールさんは、フランスの食堂の仕組みについて私たちに説明してくれた。前菜、メイン、チーズかデザートを自由に組み合わせて取るスタイルであることや、厨房は市役所にあるのではなく、料理は他の所で調理され、他にも学校などにも同じように料理を提供していることなどを知った。また、市役所の職員だけでなく議員の方も使うらしい。タブレという穀物のサラダのようなものを初めて食べた。夏によく食べる料理らしい。オロールさんはニンジンの付け合わせのようなものを選んでおり、ニンジンを食べると優しくなれるというジョークがあるからだと説明してくれた。昼食後は、市役所の中を案内してもらった。緑の豊かな街並みを維持するために、庭園を管理する部署があること、ストライプ柄が印象的なトラム（路面電車）のデザインが、有名なデザイナーによるものであることなどを知った。市役所見学の後は、いよいよ初めてのワークショップである。ワークショップは、市役所の横にあるデカルト高校で習字をすることになっていた。トゥールで日仏交流活動をされている日の出協会の方が、手伝いに来てくださった。まずは、フランス語でそれぞれの自己紹介をし、高松の場所について地図を用いて説明した。次に、習字についての説明を用意していたフランス語



トラムの模型

デカルト高校のみなさんと

の資料を使って説明し、取りかかった。それぞれ半紙に「友」という漢字を練習した後、横にカタカナやひらがなで生徒たちの名前を、廣田さんと私で手分けして書いた。フランス語の発音はｈやｒが独特なので聞き取るのが難しく、まずアルファベットで名前を書いてもらってから、発音してもらうことで何とか聞き取れた。ワークショップの最後には、大きな画仙紙の中央に「一期一会」という文字を廣田さんと私で書き、そのまわりに練習した名前をそれぞれ書いてもらった。外で生徒たちと記念撮影し、高校にプレゼントとして作品を残した。初めてのワークショップ開催で少し焦ったが、日本語の上手なオセアンや、デカルト高校で美術の先生として働くクリスティンのおかげで、どうにか進めることができた。

立派なパイプオルガン

副市長表敬まで時間があったので、トゥール市内を日の出協会の方に説明してもらいながら散策した。サンガシアン大聖堂では飾られている絵に、全てストーリーがあることを教えてくれた。ステンドグラスも作られた時代によって、色使いなどのデザインが全く異なっており、どれも素敵だった。天井が低くなっている抜け道は、昔近くに死刑囚がいる場所があったらしく、通行人が死刑囚への追悼の意味を込めるよう、わざと頭を下げるような作りになっているそうだ。レストランやカフェが多く集まるプリュムロー広場で、オセアンがおすすめするアイスクリームを食べた後、再度市役所へ向かった。トゥール市役所での歓迎セレモニーは、特別な行事が行われる婚礼の間で開催された。現地のパソコンの調子が悪く、予定していた高松市についてのプレゼンテーションはできなかったが、副市長から姉妹都市から来た私たちの紹介があった後、それぞれフランス語で自己紹介をし、高松市長からの親書やお土産を渡した。今回の滞在中にお世話になる方々のほとんどが出席してくださり、私たち二人を歓迎してくれた。期待に応えられるように頑張ろうと思える時間だった。

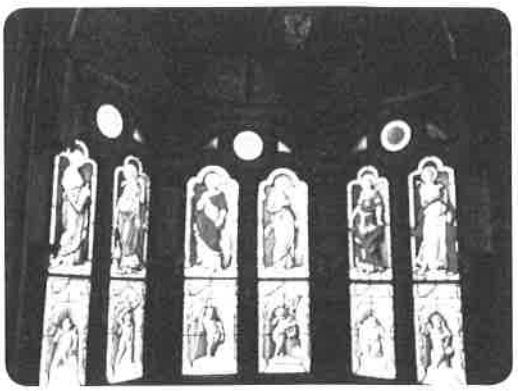
歓迎セレモニー

家に帰るとホストファーザーのアンドレが夕食の準備をしていた。アンドレと会うのは初めてだったので挨拶を交わした。その後、ホストファミリーにお土産を渡した。日本の建築のペーパークラフトや箸、お菓子などを渡したら、とても喜んでくれて嬉しかった。夕食では、初日に食べられなかったホストマザー手作りのキッシュとアンドレが作ったグリーンサラダ、さらにデザートのタルトタタンを食べながら会話を楽しんだ。私がアンドレも料理をすることに驚いていると、フランスの家庭では家事の分担は一般的だと言われた。日本の私のお父さんにもアンドレを見習ってほしい。

9月24日（火）

今日は、TER（国有鉄道）に乗ってブロワへ向かった。TERは、とても静かで日本の新幹線のようだった。道中は、トゥールの景色とは違った一面に畑が広がるのどかな風景も見ることができた。昨日、オセアンのインスタグラムを見たら、とても日本の歌やダンスが上手だったので、そのことについて話していた。オセアンは、所属するネットアイドルグループのリーダー的な存在らしい。日本のゲームやアニメ

についても、私たち２人よりも詳しく、オセアンの日本語が上手な理由やそれらが日本語の勉強へのモチベーションになっていることに納得した。ブロワについてからは、ドゥボー先生が案内してくれた。ドゥボー先生は、IUT（トゥール大学ブロワ校技術短期大学部）で物理を専門にされている先生で、少し前まで札幌大学に研究のために来ていたそうだ。ドゥボー先生から、IUT についての説明を受けた。IUT は日本の高等専門学校のような学校で、４つの専門分野に分かれているそうだ。ブロワの IUT は、元々チョコレート工場だったらしくチョコレートを振舞ってくれた。そのままドゥボー先生の案内でブロワ城の見学をした。ブロワ城は、時代の異なる４つの建築様式から成っており、それぞれの違った雰囲気や良さを感じ取ることができた。ブロワ城見学の後は、IUT に戻り、IUT で英語教師をされているファーマー先生と一緒に、ハンバーガーとポテトを昼食に食べた。昼食は、教員専用のレストルームでいただいたのだが、日本に行ったことのある教員の方々が多くて驚いた。2年ほど、つくば市にいた女性の方は、自分一人で着物を着られるという。彼女は、自分専用の箸も昼食に使っており、日本への愛が伝わってきた。昼食をとりながら、ファーマー先生とドゥボー先生とともに、日本とフランスの大学の違いについて話した。学費のことや試験における不正のこと、医学部の厳しさの事などについて話した。フランスの医学部は、１年生の人数はとても多いが、１年生がとても大変で、最終的に医者になれる人数はとても少ないそうだ。また、不正に対する罰の厳しさは日本と同じだった。



ブロワ城のステンドグラス

昼食後、ワークショップをするキャンパスへ移動した。移動中、ファーマー先生がブロワの街並みについて説明してくれた。トゥールに比べて、ブロワは第二次世界大戦の影響が少なく、古い建物が多く残っているそうだ。木製の建物が古いということを聞こうとして、wooden と私が言うと w の発音を直された。私の高校時代の先生と同じように説明してくれて懐かしかった。学校には、八戸市の高等専門学校から来た学生が２人いた。私たちが高松市についてのプレゼンテーションをした後、その２人を交えて、日本や高松についての質問に英語で答えた。IUT では、人数や年齢を考慮して、折り紙のワークショップを行った。比較的簡単な羽織や兜から始めて、鶴など少し難しいものまで折った。英語が通じることもあり、説明やコミュニケーションも取りやすかった。私の名前を呼んで、分からないことを聞いてくれたり、お互いに助け合ったりして、完成した時にはとても嬉しそうだった。私も予想以上に盛り上がったのでやりがいを感じた。時間が余ったので、八戸から来た学生が先生になり手裏剣も作った。日本っぽさが強いこともあり、受けが良かったので、今後、折り紙のワークショップをするときは取り入れていこうと思う。

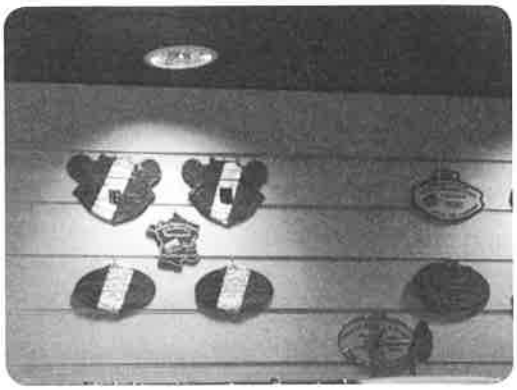
折り紙ワークショップ

帰宅し、夕食の後、ホストファミリーがコンポストを作っていることを知った。コンポストについては、大学で前期に習ったばかりで、実際に見るのは初めてだったので興味深かった。生ゴミなどを環境に優しい形で活用する素晴らしい方法だと思う。一般家庭でもそれを取り入れているということに、環境に対する意識の高さを感じた。

9月25日（水）

今日は早く起床したので、クリスティンとラジオ体操を一緒にした。昔から日本にある体操で、小学生は夏休みになると、近所で集まって一緒に体操をすることなどを説明した。フランスでは、そのような文化は無いらしく驚いていた。私も、朝から軽く体を動かすことができて気持ちよかった。

トゥール市役所に集合し、オロールさんと共にレ・アール（常設市場）へと向かった。外では、色とりどりの新鮮な果物や野菜が並べられていて美しかった。日本と違い、値段がキログラム単位で表記されており、価格の感覚が掴みづらかった。中ではチーズ屋、パン屋、肉屋、惣菜屋などの専門店が多く集まっていた。オロールさんは、トゥールの名産品であるヤギのチーズや、品質が良いことの証であるエンブレムなどについて説明してくれた。そのエンブレムが飾られた店舗は、とてもたくさんあり、レ・アールが「トゥールのお腹」と形容されることに納得した。今日は、スケジュール的に見学する時間が十分に取れなかったので少し残念だった。また、じっくり見にきたい。



高品質の証のエンブレム

レ・アールを見学した後は、オロールさんと別れ、オセアンと3人でトゥール美術館へと向かった。オセアンが小さい頃は、フリッツという名前の象がいたらしく、大きなフリッツのオブジェについて説明してくれた。美術館の中では、各階や各部屋にテーマが異なっており、最上階は現代アート、それ以外は各時代の宗教絵画などの展示であった。古い時代のものは、家具1つをとっても細部の装飾が素晴らしく、うっとりするデザインのものが多かった。また、パリでルーブル美術館に行く前に、この美術館で2人のモナリザに出会ってしまった。正確にはモナリザとは違い、モナリザにインスピレーションを受けた作品ということだったのだが再現度が高く、そのモナリザ達に満足してしまった。私と廣田さんは、それぞれ気に入った作品のポストカードをお土産用に数枚購入した。

トゥール美術館の鏡

見学後は、サンシール日仏友好協会のクレオラ美紀さんと車でキッズリクリエーションセンターへと向かった。フランスでは、一般的に小学校は水曜日が中休みになっているらしく、キッズリクリエーションセンターでは、朝にバスで子供達を迎えに行き、夕方まで預かり、再びバスで送っているそうだ。私は、子供の頃からずっと水曜日が休みになってほしいと思っていたので、フランスの小学生を羨ましく思った。適度に休みを入れる方が、モチベーションの維持に繋がると思うので、私はこの制度は賢明だと考える。また、道路を通っていて気づいたのだが、ラウンドアバウトと呼ばれる円形の交差点が非常に多い。最近日本にも取り入れられたとは聞いていたが、まだ実際に見たことは無かったので興味深かった。信号待ちの間の排気ガスを減らすことなどに効果があると、美紀さんが教えてくれた。到着してからは、まず職員の方々と一緒に昼食をとった。私たちの横のテーブルでは、幼稚園くらいの小さな子供たちも食事をとっていたのだが、みんなきちんと着席して、自分で食事していたのでしっかりしている印象を受けた。また、食事中にはクレオラ美紀さんのお話も伺った。元々、フランスと日本の交流における通訳などの仕事をされていたそうで、

お手本を見せる廣田さん

サンシール市にあった日本の中学・高校が閉校になった時に、せっかく築いてきた日仏の友好関係が途絶えてしまうことを危惧し、サンシール日仏協会をその高校の一室を拠点として始めたそうだ。現在では、クレオラ美紀さんによる日本料理教室の他に、私のホストシスターであるリルーが所属する和太鼓クラブなど、様々な日本文化を体験できる活動を提供している。遠く離れたフランスの地で、熱心に日仏の架け橋となってくれている存在に感激した。昼食後は、早速ワークショップに取り掛かった。まずは、少し年齢の高い子供たちだったので、習字のワークショップを行った。服が汚れることを防ぐために、インクは墨の代わりにガッシュという水性のインクを使用した。進行は、デカルト高校の時とほとんど同じようにしたのだが、年齢が違うこともあり、英語は全く通じず、言葉で説明するのは困難だった。しかし、クレオラ美紀さんが、漢字には筆順があり、その通りに書くことが大切であるとフランス語で説明してくださったり、名前を聞くときにオセアンが手伝ってくれたりして、素敵な作品を完成させることができた。中には、私たちが名前の書き方を教えてあげる前に、カタカナで自分の名前を書いて自慢そうに見せてくれる子や、私の手がインクで汚れていることを気遣って、手洗い場まで連れて行ってくれる子などがいて本当に愛らしかった。みんなフランス語で色々話しかけてくれるが、自分がすぐに返事してあげられない事をもどかしく思い、滞在中で一番フランス語ができないことを悔しく思った瞬間だった。次の時間は、幼稚園くらいの年齢の子も交えて折り紙をすることにした。人数も多かったので、簡単かつ遊べる紙飛行機をみんなで作った。年上の子が年下の子に教えてあげていて、とても微笑ましい光景だった。作った後は外で紙飛行機を飛ばして遊んだ。みんな楽しそうに遊んでいたのだが、雨が降り出したため、すぐに中に入ることになってしまい少し残念だった。記念撮影をした後、再びトゥールへと戻った。

予定よりもずいぶん早く終わり、トゥールに来て初めて自由時間ができたので、オセアンに案内してもらって、食料品や衣料品、雑貨などが揃うモノプリというスーパーマーケットを訪れた。フランスのスーパーマーケットを見るのはとても楽しかった。乳製品はとても種類が多く安価で、調味料は見たことも無いものが大きな瓶に詰められて売っていた。お菓子の種類も多く、安く売っていたので、お土産用にいくつか購入した。まだ見足りないので帰るまでにもう一度は来たいと思った。

家に帰ると、今日はクリスティンが夕食を作っていた。クリスティンのお母さんがプレゼントしてくれたという分厚いレシピ本を見ながら、手作りの焼き菓子とキッシュを作っていたため、家に入った瞬間、美味しそうな匂いで充満していた。また、食事の時、初めてトゥールの特産品であるヤギのチーズを食べた。牛のチーズに比べて匂いがきつく、オセアンは苦手だと言っていたので、どんな味がするのかドキドキだったが、濃厚でバゲットとの相性が良く美味しかった。フランスに来てから、チーズがどれも美味しいので、お土産に買って帰ることを決めた。

ヤギのチーズ

食後は、リルーと日本とフランスのことについて話した。私が、フランスの街並みがとても素敵だという事を伝えると、リルーは、むしろ日本の方が好きだと言って、お互いに無いものに惹かれるのかなという結論に至った。学校の違いなども話していると、今まで全然知らなかったフランスについてのことだけでなく、当たり前だと思っていたことが日本独特であるものなどに気づき、話題に尽きなかった。

9月26日（木）

今日は、朝の集合時間が非常に早く、通勤時間のトラムに乗り、ディドロ小学校まで向かった。ここでは、2時間ワークショップが予定されており、1時間目は折り紙、2時間目は習字をすることになった。緊急ベルのようなけたたましいチャイムが鳴ると、子供たちが入ってきて、まずは自己紹介から始めた。クラスの人数は11人で、日本の小学校よりも少ない印象をうけた。2年生のクラスだったので、比較的簡単なハートから初めて兜、箱を折り紙で作った。苦戦しているようだったので、全員できたかどうか確認しながら進めていると、あっという間に1時間が過ぎた。せっかくなので他の折り紙についても、作り方の説明を先生にコピーをしてもらい、折り紙もプレゼントして学校でもできるようにした。その時、猫や犬の説明用紙を見たときの反応がとても良かったので、そちらの方を作るべきだったかなと思った。私たちが帰った後にも、みんなで作ってくれることを期待した。2時間目は、習字のワークショップであった。私と廣田さんも3回目の習字ワークショップという事もあり、少し慣れてきて段取り良く進めることができたと思う。真ん中に大きく「友」と朱色で私たちが書き、その周りに生徒たちがそれぞれ自分の名前を書いた。後から見ても読めるように、先生がアルファベットで横に名前を書いてくださった。生徒によっては、日本語の音で書くととても長くなってしまう子もいて、少し書くのが大変そうだったが、思い思いにダイナミックに書いてくれて元気な作品が完成した。

ディドロ小学校で習字ワークショップ

ディドロ小学校で昼食を終えた後は、トゥール地方音楽院に行き見学をさせていただいた。小学生から大学生位の生徒が通っているそうで、音楽だけでなくバレエや演劇などの授業もあるそうだ。昔の校舎も見せてもらうことができ、歴史のある学校であることを実感できた。練習中の様子などはあまり見ることができなかったが、施設の説明をひと通りしてもらい、予定よりも1時間以上早く見学は終了した。早めにトゥール駅の方へ戻ると火薬の匂いが立ち込めていたので、花火でもしているのかなと話しているとデモが行われていた。滞在中2回目のデモ遭遇である。それほどフランス人にとって、デモが表現方法の一つとして一般的であるということであろう。後で家に帰ってから聞くと、消防士さんたちによる労働条件を抗議するデモだったそうだ。

有名なブリオッシュ

時間があったので、駅前の有名なブリオッシュ屋さん

に寄った。家に帰ってから食べたが、外側がパリパリで中はふわっとしていてとても美味しかった。その後オセアンのお勧めの化粧品屋さんに寄った。フランス人は香水をつけている人が多く、私もここで香水デビューしようかと思ったが、慣れない化粧品の匂いが混ざった強烈な香りに酔ってしまった。香水デビューは、まだまだ先になりそうだ。

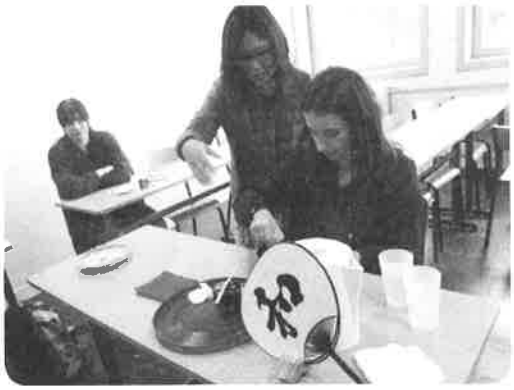
予定よりも早くトゥーレーヌ語学学院に到着したため、ロビーで1時間程座って休憩してからワークショップに取り掛かった。トゥーレーヌ語学学院は、世界各国からフランス語やフランス文化を学ぶ生徒を受け入れている。敷地内では、フランス語以外の言語の使用を禁止されている。学校とは思えないほど豪華なシャンデリアが飾られた素敵な部屋に通され、テンションが上がった。ここでは、高松市についてのプレゼンテーションと高松市のお菓子の紹介をする予定になっていたのだが、校長先生がこのワークショップに参加するように声を掛けた生徒がほとんど日本人の生徒だったので、私たちは日本語でプレゼンテーションをすることになった。高松市出身の廣田さんが主に発表をしてくれた。事前研修も生かしていて素晴らしい出来栄えだった。フランス人の生徒や先生が日本人の生徒を通して積極的に質問をしてくれたので、それに答えていたらあっという間に1時間が経ってしまい、結局、高松市のお菓子の説明までする時間は取れなかったが、興味を持って聞いてくれていた事が嬉しかった。校長先生も私たちの訪問やプレゼンテーションにとても満足してくださり、お土産と学校への入学案内を渡してくれた。何年か後にお世話になるかもしれない。

トゥーレーヌ語学学院にて

家に帰ると、今日はアンドレとクリスティンが外で友達と食事を取るということだったので、リルーとニノと3人での食事となった。リルーの手作りパスタは、オリーブの塩味がアクセントになっていて美味しかった。今日は明日に備えて早く就寝した。

9月27日（金）

今日はバスで移動してトゥール大学へ行った。2時間のワークショップが予定されていた。1時間目は、高松市のプレゼンテーションと折り紙のワークショップを行った。日本語教師をされている保井先生がフランス語のサポートをしてくださるという事だったので、前日と同じように日本語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションも、大分スムーズに行えるようになってきた。折り紙で羽織を作った。途中手順が難しいところもあったみたいだが、完成した後に写真で撮っている人もいて、綺麗な日本の和紙でできた羽織を気に入ってもらえたのが嬉しかった。少し休憩を挟んだあと、2時間目は茶道のワークショップを行った。私も廣田さんも茶道の経験は無く、直前まで事前研修で撮影した先生のお点前の動画で復習していた。私たちがお手前をした後、生徒が1人ずつ次の人のお茶を点てるという体験型で進めた。私たちは上手に抹茶の



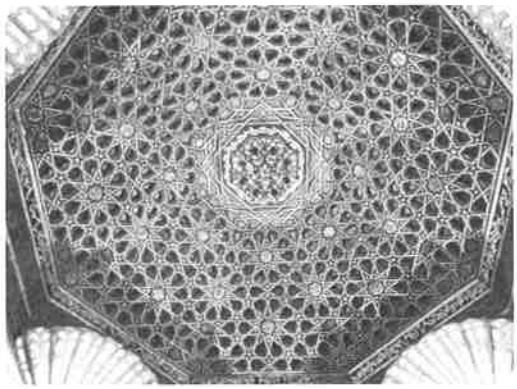
茶道ワークショップ

トゥール大学のみんなと

泡が立てられるようになるまで事前に練習を何度か行っていたが、みんな上手に泡を立てるので驚いた。また、保井先生がお茶を振舞われる側の作法についてのプリントを用意して説明してくれたため、お茶会らしくなった。その後、事前研修の折り紙の先生からいただいた作品をみんなにプレゼントした。生徒たちは「フランスにも折り紙の先生がいればいいのに」と言って非常に喜んでくれた。折り紙のワークショップの後は、みんなと一緒に昼食を取った。ここの昼食は、トゥールに来てから食べた昼食の中で一番美味しく感動した。クロワッサンのクロックムッシュやチーズのサラダ、洋ナシのタルト、すべてがお店の味のようだった。全員日本に対する興味が高く、食事中に有名な日本のアニメのオープニングテーマを歌ったりしていた。漫画やアニメに対する知識は、私より遥かに上だったので、日本について話すためにも、私ももう少し日本を知る努力をしようと思った。みんなからホームパーティーの招待を受けたが、ホームステイをしているから難しいということをオセアンから伝えてもらい、オセアンは参加することになった。ラーメンを作ったり、カラオケをしたりして楽しいパーティーになったそうだ。

美しい庭園

みんなと昼食を楽しんだ後は、トゥール市役所のマーゴさんの運転でヴィランドリー城へ向かった。ヴィランドリー城見学は、現地研修の中で私が最も楽しみにしていた場所である。ヴィランドリー城は、ロワールというトゥールからは少し離れたところにあり、ルネサンス様式のお城や幾何学模様の美しい庭園が有名である。古い建物が作り出す街並みも、トゥールとはまた違って美しかった。まずは城の中を城主のカルヴァロさんに案内してもらった。食事に使われていた部屋には、豪華なシャンデリアが飾ってあり、テーブルの上には綺麗なお皿とカトラリーがたくさん並べてあり美しかった。個室は、それぞれ住んでいた人の肖像画とともにお部屋が再現されていた。壁の中に埋め込まれたベッドがとても可愛らしかった。宗教画がたくさん飾られている部屋を過ぎると、有名な「イスラム天井」を見ることができた。細かい幾何学模様で、ずっと見ていると目が回りそうだった。



イスラム天井

城内を見学した後は、いよいよ庭園へ。カラフルな色で形作られたデザインは、小高くなっているところから見下ろすと、１つの絵を見ているような感じがした。花の種類で色を変えている庭園もあれば、野菜で色を変えている庭園もあり、遠くから眺めるのも、近くから観察するのも楽しかった。庭園の見学が終わった後は、お土産を買い、外でマーゴさんにクレープを御馳走してもらった。ヌテラというチョコレートクリームがたっぷりと塗られたクレープは甘くて美味しかった。

ホストファミリーとお好み焼き

今日の夕食は、私が広島県出身ということでお好み焼を振る舞うと事前に決めていた。帰宅後すぐに、リルーと近所のスーパーへ行き、キャベツと豚肉を購入した。お好み焼き粉やお好み焼きソース、マヨネーズ、青のり、鰹節は日本から持ってきていた。火力が日本に比べて強く、焦げそうになったものもあったが、失敗もなくお好み焼を完成させることができた。お好み焼きは、お土産で持ってきた箸を使って食べた。クリスティンとアンドレは箸を使うのが難しかったらしく、すぐに諦めてナイフとフォークを使って食べていた。リルーは日本に10ヶ月いただけのこともあり、とても上手に箸を使って食べていた。みんな美味しいと言ってくれて、作った甲斐があった。お好み焼きには種類があって、広島風と関西風があることを説明すると興味を持って聞いてもらえた。材料も少なく、手順も簡単なので是非作ってもらいたい。

9月28日（土）

トゥール市に滞在する最終日となった朝は、ゆっくりと起きて朝食をとった。明日の朝にはホストファミリーとお別れするのかと思うと少し寂しく思ったが、悔いのないように今日もたくさんコミュニケーションを取り、ワークショップを頑張ろうと思った。午前中はスケジュールが空いていたので、大体の荷物をスーツケースに詰めた後、廣田さんを誘って、リルーに買い物に連れて行ってもらった。スーパーマーケットに行き、チーズ専用コーナーで、お土産用にたくさんチーズを買った。日本とは比較にならないほどの種類と安さであった。他にもお店を回った後、廣田さんと別れて家に戻り、ホストファミリーと昼食を取った。生ハムでメロンを巻いて食べるというお洒落な前菜と魚のクリーム煮とご飯といただいた。その時にフランスの徴兵制度について話を聞いた。フランスでは女性にも徴兵があるらしく、リルーは10月に1日だけ訓練にいかなければならないらしい。また、昔は期間も長く、ポリネシアの方まで行かなければならない時代もあったらしい。フランスでも軍隊に入りたい人は少ないらしく、ニノの世代からは徴兵期間が1年に延びるそうだ。日本では馴染みのない制度なので聞いていて新鮮であり、少し怖さも感じた。

購入したチーズ

リルーとトゥール植物園にて

昼食後に、ホストファミリーと歩いてトゥール植物園に向かった。ここの植物園は、私の想像していたものとは違い、フラミンゴやクジャク、カンガルーなどがいて、ちょっとした動物園のような雰囲気だった。私たちは、この植物園で日本文化を紹介するイベントに参加し、うちわのワークショップを開催した。うちわの片面には高松市の観光名所や名物が印刷されていて、もう片方の面に私たちが来場者の名前を筆

で書いて渡すというものだ。その他、フランス語の高松市の観光パンフレットなどを置いて高松市をアピールした。私たちが用意されたブースに到着すると、昨日トゥール大学で仲良くなった生徒たちが開始時間ちょうどに来てくれて、とても嬉しかった。既にブース前には列ができていた。どんどんと列は長くなり、私たちは忙しく作業を続けた。高松からお土産に持参していた瓦せんべいを試食用に割って、説明文と一緒に置くことで、待っている人たちが食べられるように工夫した。オセアンがボランティアで来てくれた。日本とフランスのｒの発音が違うことなどを説明してくれながら、名前を聞いてくれたため、スムーズに作業を進めることができた。とても人気だったため、すぐに用意していた大きなうちわも小さなうちわも無くなってしまった。これに対応するために、小さいうちわのセットに入っていた余分のうちわの形のシールを、綺麗な柄の折り紙に貼り付けて、そこに来場者の名前を書いて渡す形式で作業を続けた。紙に筆で名前を書くということだけなのに、ものすごく喜んでもらえた。トゥール市の人々が日本や高松に興味を持ってくれているということを感じられて、研修の目的を達成できていると感じた。16時過ぎには何も作業ができないくらいに用意したものが無くなっていた。その後は、トゥール大学の生徒たちとオセアンと共にリルーの和太鼓演奏を聞いた。手の動きや掛け声が揃っていて、力強い演奏を聞くことができた。リルーも練習の成果が出せたのだと思う。帰り道にはレ・アール（常設市場）のパティスリーで、トゥールの特産品である蜜漬けのフルーツが入ったどっしりとした甘いケーキを、私の日本の家族へのお土産用に買ってプレゼントしてくれた。私の家族にまで気を遣ってくれて、本当にありがたく思った。日本に帰って、フランスでの話をしながら家族と食べようと思う。

うちわのワークショップ

今日の夕食は、私が最終日ということもあり、プリュムロー広場にあるレストランに連れて行ってくれた。ホストファミリーお気に入りのクレープ屋さんらしく、ご飯系のクレープやデザート系のクレープなどメニューの数が豊富であった。私がメニューを読むのに苦戦していると、クリスティンが英語のメニューがないか聞きに行ってくれたのだが、無かったらしく、私は、リルーの助けを借りてメニューを必死に解読した。結局、全て読んでいては時間がいくらあっても足りないと思ったので、ニノと同じものにすることにした。トマトソースとチーズと海鮮が包まれたクレープは、日本ではあまり食べないようなメニューで美味しかった。ご飯系のクレープの後は、デザート系のクレープも食べた。お腹がいっぱいになったので、家まで少し散歩をしながら帰ることになった。滞在中に訪れた教会の横を通った時、ライトアップされていて、日中とはまた違った魅力や美しさがあった。街のどこをどの時間に通っても、絵になるような素敵な街であると思った。

レストランにて

9月29日（日）

駅でお別れ

ついにホストファミリーとトゥールにお別れする日がやってきた。私は、リルー、ニノ、それぞれにお別れの言葉と感謝の言葉を言い、家を後にした。みんな、またフランスに来るときは是非寄ってねと言ってくれて、本当に嬉しかった。素敵なホストファミリーに恵まれて、私のトゥール市での研修が、何倍も充実して楽しいものになったのだと思う。ホストファミリーには、感謝しても感謝仕切れない。サン・ピエール・デ・コール駅で、私と廣田さんのホストファミリー、トゥール市役所のアミローさんとお別れをして、いよいよ2人だけでの旅が始まった。TGV に乗って早々に何号車か分からず出入り口付近で立ち往生していると、優しい女性が気にかけてくれて、英語で場所を教えてくれた。また、モンパルナス駅に着いた時も、私たちの重いスーツケースを出すのを助けてくれた人もいた。人々の優しさに感謝である。

ルーブル美術館

駅に着いてからは、まず出口が分からず、ホテルの地図を駅員さんに見せながら尋ねた。それからは、携帯電話の地図アプリを使いながらスムーズにホテルに到着できた。荷物を一旦預け、昨年度の研修生のアドバイスを参考に、明日乗る空港行きのバス停の場所を確認した。意外とすぐに見つけることができ、事前にチケットの購入まで済ませることができた。チケットカウンターでカード支払いすることで、明日バスの中で買うよりも1ユーロ安く購入できた。初日にガイドさんと購入したメトロ（地下鉄）のチケットを使ってメトロに乗り、まずはルーブル美術館を目指した。2人ともコートの中にバッグをかけて防犯対策万全だった。メトロは想像していたよりもスピードが速く、あっという間に目的の駅まで着いた。人の流れに乗って駅を出た後は、また地図アプリを使ってルーブル美術館まで歩いた。有名なルーブルピラミッドを見る事ができて、とても満足した。出入り口付近には、日本語で「焼き栗」と言いながら焼き栗を売っている人や、お土産を売っている人がたくさんいた。彼らは、商品を地面に広げて置いて商売しているので、歩道が妨げられて歩くのが大変だった。ルーブル美術館の外に出ると、大きなセーヌ川が流れており、素敵な景色を楽しむことができた。その後は、私がずっと行きたかったアンジェリーナへと向かった。モンブランとホットチョコレートが有名なお店なので、その2つをセットで注文した。日本のモンブランの何十倍も濃厚で甘く贅沢な味がした。ホットチョコレートも、ドリンクというよりはチョコレートをそのまま溶かしただけのようなねっとりと

凱旋門の前で

エッフェル塔

した濃厚さで、喉に張り付くような甘さであった。甘さで胃もたれした私と廣田さんは、散歩も兼ねてシャンゼリゼ大通りまで歩いて、凱旋門を目指すことに決めた。トゥール市とは違って、観光客も多く、写真を撮っている人が多くいた。とても交通量が多い道の先にある凱旋門は、歴史を感じさせる雰囲気があり、近代的なものと融合している街並みが新鮮に感じられた。凱旋門の次は、エッフェル塔まで歩いて向かった。元々は、目的地までメトロを使って移動する予定だったのだが、意外と観光名所が近くに点在しているので殆ど歩いて移動した。メトロの駅を見つける手間も省け、パリの街並みも楽しめるしおすすめである。エッフェル塔では、第2展望台までエレベーターではなく階段を使って上った。これもまた意外と簡単に登れた。展望台からは、パリの街並みを見渡す事ができ気持ちよかった。欲を言えば、もう少し天気が良ければ景色が何倍もきれいだったのになと思う。回りたい観光スポットは、すべて制覇する事ができたので、メトロに乗ってホテルまで向かった。ホテル近くのレストランで夕食を済ませた後は、廣田さんと1時間交代で仮眠をとりながらパッキングをした。トゥール市で私が買ったチーズは、臭いが強烈でビニール袋で6重にしても臭かった。

9月30日（月）

フランスを発つ日がとうとうやってきてしまった。ホテルで廣田さんと朝食をとった後、まとめていた荷物を持ってホテルをチェックアウトした。前日にバス停の場所の確認とチケット購入を済ませていたため、迷うことなくバスに乗り、空港へと向かう事ができた。大分余裕をもって搭乗手続きも済ませる事ができたので、それぞれ足りないお土産を買い足すなどして時間をつぶした。帰りのフライトは、行きのフライトとは違ってほとんど寝て過ごした。

10月1日（火）

あっという間に関西国際空港に到着し、日本に無事帰ってこられたことにほっとした。長いようで短い10日間であったが、私たちをサポートしてくれた方々に感謝である。お土産をもって、滞在中の話を家族にたくさんしようと思う。

親善研修生　報告書Ⅱ

感想文

香川大学　医学部１年
門田　美優

研修を終えて

トゥール市で過ごした日々は、外国に行くこと自体が初めてだった私にとって、毎日が刺激的で充実した日々でした。１日１日がこんなにも濃厚な日々を送ったのは、これが初めてだと思います。そのような研修を通して、私は「行動に移す」ことの大切さを改めて実感する事ができました。研修に行く前は、日にちが近づくにつれて、楽しみと同時に不安や心配の気持ちが大きくなっていったのを覚えています。きちんと飛行機に乗れるか、ホストファミリーと上手くコミュニケーションをとれるか、準備したワークショップをきちんとこなせるか、スリに合わないか……など、挙げだすときりがありません。しかし、実際その状況下に置かれると、その都度そのような心配している暇はありません。その時の自分にできる最大限のことを、周囲の人の助けを借りながらやりきるしかありません。言葉が通じないことで、苦労することは多々ありましたが、言葉以外の方法でどうにか伝えたり、一緒に研修に同行してくれたオセアンの助けを借りたりしながら、完璧とは言えないかもしれませんが、ワークショップを成功させる事ができました。小さい子供たちと触れ合う機会も多く、懸命に話しかけてくれることに対して、自分からフランス語ですぐに返事を返す事ができなかったことは残念ですが、この経験から、もっとフランス語を話せるようになりたいという思いが芽生えたと思います。ホストファミリーと会話する時も、話す前にどうやって話そうか、この表現で伝わるだろうかと考えてしまい、初めの頃は自分から話すことを躊躇していました。しかし、いざ話してみると意外と会話が盛り上がり、次第にもっと話したいと思うようになりました。また、ホストファミリーや現地の人々との会話を通して、いかに自分が日本について、未知が多いことを知りました。異文化を知るのと同時に、故郷や高松市のこと、日本の文化のことなどについても、もっと知識を深め、自分の言葉で説明できるようになりたいと思いました。

「行動に移す」には勇気がいりますが、今回の研修に参加することで、新たなことにチャレンジするというハードルが下がったような気がします。もちろん困難や不安はありますが、実際に経験することでしか得られないものがその何倍もあります。この研修で学んだことは、今後の自分の活動に生かしていくだけでなく、高松市の人々にも伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の研修を支えてくださったすべての方々に感謝の意を申し上げます。